

- 1 審議会名 令和6年度 第5回安曇野市子ども・子育て会議
- 2 日 時 令和7年2月5日(水) 午後1時30分から午後2時30分まで
- 3 会 場 安曇野市役所 本庁舎 3階 全員協議会室
- 4 出席者 中島委員、酒井委員、丸山委員、大澤(克)委員、竹内委員、森岡委員、平沢委員、大日向委員、牟禮委員、赤沼委員、大澤(美)委員、横川委員
- 5 欠席者 太田委員、木下委員、服部委員
- 6 市側出席者 橋渡教育長、洞教育部長、山口教育指導室長、山浦教育担当係長、橋詰健康推進担当係長、佐々木こども園幼稚園課長、青嶋保育幼稚園担当係長、山越子ども家庭支援課長、高橋子ども家庭支援課副参事、赤羽子ども家庭支援課長補佐、古畑子ども家庭支援課長補佐、平田子ども家庭相談担当係長、野村子育て給付係長、宮島子ども子育て政策係主査
- 7 市側欠席者 高橋家庭相談担当係長、草間健康支援担当第2係長
- 8 公開・非公開の別 公開
- 9 傍聴人 0人 記者 0人
- 10 会議概要作成年月日 令和7年2月12日

協 議 事 項 等

I 会議の概要

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事事項
 - (1) 子ども・子育て支援事業計画案のパブリックコメント実施結果について
 - (2) 子ども・子育て支援事業計画の最終案について
 - (3) その他
- 4 閉 会

議事事項

- (1) 子ども・子育て支援事業計画案のパブリックコメント実施結果について
- ・事務局より第3次安曇野市子ども・子育て支援事業計画案に関するパブリックコメントの実施結果について説明。(意見者数0名、意見数0件)

【質疑応答】特になし。

- (2) 子ども・子育て支援事業計画の最終案について
- ・事務局より第3次安曇野市子ども・子育て支援事業計画の最終案について説明。

【質疑応答】

(委 員)

- ・11ページの図10「母親の就労状況とフルタイムへの転換希望」について、グラフ左側が「現在の就労状況」、右側は「パートアルバイト等で就労している者」と見出しになっている。
- ・左側のパートアルバイト等で就労していると回答した方々のフルタイムへの転換希望について表わしているならば、右側グラフの「パートアルバイト等で就労している者」という見出しだと、何を表しているグラフなのかがわかりづらい。またグラフ間のオレンジ色矢印の意味も何のための矢印か読み解けなかった。解説を加えるかもしくは直す必要があると考える。

(事務局)

- ・分かりやすい表現に変更する。

(事務局)

- ・20ページ図26「未就学児童保護者が幼稚園・保育園にもっと増やしてほしいと思うこと」について、

「体操・英語等の付加的プログラム（習い事的プログラム）」、「体を動かすこと」は、要望が多いが対応、フォロー等はしているのか。習い事は個人的なことであって保育園・幼稚園等の全体としてやるべきではないのではないか。市の考え方について聞きたい。

(事務局)

・公立園では実施はしていないが、私立園では園の特色として取り入れているところがある。こども園は働いている保護者が安心して預けられるというところとして捉えている。

・本調査は保護者に対する全般的なニーズを複数回答により確認する調査であり、個別に各園に何が必要かを聞いているわけではない。公立・私立それぞれに特徴がある。なお、公立認定こども園については、体を動かすこと等など、63 ページ以降に運営方針等を書いている。

(委員)

・あくまでもニーズではあるが、せっかくなので現場の話をお聞きしたい。

(委員)

・公立幼稚園では、特別な習い事プログラムは実施していない。生活の中で子どもたちが遊びの中で様々なものに触れるという機会をもって、教育要領や保育指針に基づいて保育を実施している。

(委員)

・公立こども園では体づくりとしてコーディネーショントレーニングを年間で数時間取り組んでいる。

(委員)

・法人私立園だが、英語・リトミック・ピアノといった様々なことをやっており、保護者もそれを選んできている。それぞれ公立・私立の良さを知って園を選んでくれていると思う。

(委員)

・園で英語等をやることより、やはり安全に自然教育でハラハラドキドキできるような日々が送れるのが一番だと考える。

(委員)

16 ページ図 18 について、示したいのは、コロナ禍で低下した利用が回復しているということか。しかし、例えば「放課後児童クラブ事業」では、令和 2 年度春の一斉休校時に終日放課後児童クラブを何日か開き続けたことがあった。そういった影響をいかに受けたかということを示すのであれば、逆にコロナの影響で拡大せざるを得なかったことを載せても良いと感じた。この表で何を言いたいのかによって、内容が変わってくる。

(事務局)

この図は第 2 次の振り返りと、第 3 次計画の量の見込みの検討のための資料である。その中で、コロナ禍により利用がなかなか伸びなかったことを示した。分かりづらく申し訳ない。

(委員)

意見が出尽くしたので、これで本計画の最終案という形にする。

事務局で手続きを進めてほしい。

(3) その他

・事務局より、計画書の作成、来年度の会議予定等について説明。

【質疑応答】 特になし